

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)に注意しましょう

キャベツを始めとするあぶらな科野菜の定植が始まりました。9月上旬(南河内)の巡回調査で、河南町、羽曳野市の一部のほ場で、ハイマダラノメイガの発生が確認されています(100株に約1頭)。

あぶらな科野菜(*)は、生育初期に生長点を加害されると、特にキャベツ等では結球できず商品価値を失います。そのため、定植時や生育初期に以下の薬剤等を施用するなどの対策を行い、被害を防止しましょう。

*あぶらな科野菜:キャベツ、だいこん、はくさい、ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類(こまつな、大阪しろな、他)

○対策

以下の薬剤を施用したり、耕種的防除を組み合わせ防除しましょう。

1 薬剤による防除法

(注意)農薬名等の後にある()内記号は、次の適用作物を表す。

(a)キャベツ、(b)だいこん、(c)はくさい、(d)ブロッコリー、

(e1)非結球あぶらな科葉菜類(のざわな、チンゲンサイ、こまつなを除く)、

(e2)非結球あぶらな科葉菜類(みずな、長崎はくさいを除く)

(1)セル成型育苗トレイ(培土)に処理する。

○スタークル顆粒水溶剤/アルバリン顆粒水溶剤(a)

(50~100倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(30×60cm)、使用土壌約3L)

かん注 定植前日~定植時/1回)

○プリンス粒剤(a)

(30g/セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約3L)トレイ または ペーパーポットの上から散布 は種時~定植前/1回)

(2) 次の薬剤を、育苗期や定植時等に施用する。

○アクタラ粒剤5(2g/株 株元散布 育苗期後半/1回または植穴処理定植時/1回)(a)

○アクタラ粒剤5(2g/株 株元散布 育苗期後半/1回)(d)

○モスピラン粒剤(0.5g/株 株元散布 定植前日～定植当日/1回)(a)

(3) 発生初期に下記の薬剤を薬液が芯葉に届くよう丁寧に散布する。

○スピノエース顆粒水和剤(5,000倍 3日/3回) (a)

○スピノエース顆粒水和剤(2,500～5,000倍 3日/3回) (c)

○スピノエース顆粒水和剤(2,500～5,000倍 14日/2回)(e2)

○エルサン乳剤(1,000～2,000倍 14日/2回)(a)

○エルサン乳剤(1,000～2,000倍 21日/3回)(c)

○エルサン乳剤(1,000～2,000倍 30日/2回)(d)

○トルネードフロアブル(2,000倍 7日/2回)(a)

○アフーム乳剤(1,000～2,000倍 7日/3回)(a)

○アフーム乳剤(1,000～2,000倍 7日/3回)(e1)

○パダンSG水溶剤(1,000倍 7日/3回)(b)

○ハチハチ乳剤(1,000～2,000倍 14日/2回)(b,c)

○ディプレックス乳剤(800～1,000倍 14日/6回)(b)

○ディプレックス乳剤(800～1,000倍 7日/5回)(c)

○プリンスフロアブル(2,000倍 14日/2回) (a)

○プリンスフロアブル(2,000倍 21日/2回)(c)

○プリンスフロアブル(2,000倍 30日/2回)(d)

2 耕種的防除法

○育苗中の苗は、寒冷しゃ等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。

○定植には健全苗を使用し、本ほへの幼虫の持ち込みを防ぐ。

◎防除薬剤については、

●Web版大阪府病害虫防除指針(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

にて確認してください。